



あたたかくなる

12月9日(金)、来年度の生徒会役員を決める、立会演説会と選挙が行われました。本当は、1,3年生を体育館に入れて演説会を行う予定でしたが、感染症の状況から、体育館と教室をリモートでつなぐ方法で行いました。どの立候補者、責任者とも、素晴らしい演説で、こんなにも東中のことを想ってくれる生徒がいることを頼もしく思うと共に、誰もが仲間との結びつきについて話していて、あ



たかい気持ちになりました。選挙を終えて結果は出たのですが、2年生の教室ではその結果を聞き、立候補者や責任者でなくても泣き出してしまう生徒がいて、誰もが主役でこの生徒会選挙に取り組んでくれていたことを再確認しました。選挙運動の時の選挙管理委員の的確な運営、担任の先生が心配そうに付き添っていた姿、1,3年生が一生懸命演説を聴き、受けとめていた姿も思い出し、2年生が中心となる生徒会活動も、しっかりと前に進んでいくことができると確信しました。

「青春って、すごく密なので」今夏の甲子園大会で優勝した仙台育英高校野球部、須江監督の言葉が話題となりました。須江監督は、コロナ禍の高校生活を余儀なくされた高校3年生をはじめ部員たちに、「創造力は優しさ」という言葉を投げかけ続けてきたそうです。『創造すること』、『結ぶこと』を大切にしてきた東中ですが、その基本には、コロナ禍1年目の『想うこと』があります。密になれない状況はまだ続き、想像しないと見え難くなってしまいうこともあります。でも、『想うこと』を実践している生徒の姿勢から学ぶことがたくさんあり、これから我々大人も、こういった姿勢を大切にしていかなければと思います。

12月14日(水)には、1年生が合唱コンクールを行いました。感染症が心配な面もあり、対策を行い、限られた練習時間で行いました。初めての経験で、緊張した様子も見られましたが、その緊張感をクラスのみinnで共有したことに意味があり、どのクラスも今の精一杯を



表現することができました。様々な状況から、欠席者が多いクラスもありましたが、マスク越しにうなずきながら精一杯表現して歌う姿は、その場にはいない生徒の想いのせたクラス全員の合唱に見えました。

冬の寒さは、日々厳しさを増しています。それでも生徒といるとあたたかくなります。想像してみてください。東中はそんな学校です。そして、これからもそうあり続けたいと想っています

進路決定本番

かつて私が学級担任だった頃、クラスにダウン症の女の子がいました。3年間ずっともち上げ、周りの生徒たちとの関係も大変良好でしたが、精神年齢は5歳ぐらいで、中学3年生の中にひとりだけ幼い子がいた感じでした。ちょうど今頃のことです。ひとりの生徒が、サンタクロースの存在を信じて疑わないその生徒に尋ねました。「プレゼントは何をお願いするの？」答えは、「サイン帳」。別れを淋しく感じていたその生徒の想いにふれ、頭の中が受験一色であったクラスから、「俺たち卒業するんだね。」そんなささやきが聞かれました。

12月20日(火)から23日(金)まで三者懇談が行われました。3年生にとっては、ほぼ進路を決定する大切な懇談となります。また、今年度は入試の動きが早く、年明けには私立高校の推薦入試が行われることもあり、三者懇談と並行して、公立の前期入試も含めた面接練習を行いました。高校入試は、義務教育を終えようとする中、生徒たちにとっては自分の進むべき道を決める初めての大きな試練です。面接は、初対面の大人にいかに関心を伝えるか、想いを伝えるかが大切になりますが、挑んでいく生徒たちを我々職員も精一杯フォローしたいと考えています。私自身も面接練習に参加しましたが、生徒たちの念入りな準備と、ひたむきな姿勢に心が打たれました。そして、3年職員と生徒たちのつながりを感じて、あたたかい気持ちにもなりました。

面接練習をしていると、「感謝」という言葉をよく耳にします。3年生は、ここから卒業までの時間で、多くのことを考え、様々な想いを受けとめ、経験し、成長していきます。我々大人は、子供たちを見守り、自律を助けていけたらと思います。



新年に向けて

学校にはお正月が2回あります。それぞれの学年が進級し年度のスタートを迎える4月と、新年を迎える1月です。学期のスタートも含めれば、3回とも言えるのですが、それはどうしてでしょうか。人は誰でも思い立った時、気持ちの整理をして切り替えた時、新しい一歩を踏み出すことができます。成長期にある子供たちにとってはなおさらです。それでも何かきっかけがあった方が前に進みやすいのは事実であり、そのために多くの機会があるのだと思います。「新しい年を迎えるから」、その一言を上手に利用しましょう。

さあ、まもなく2023年です。新年のスタートであり、来年度に向けた大切な準備期間である3学期のスタートです。一人ひとりが目標をもち、歩み出すことができると想います。また、学校全体でも生徒会役員を中心に、3年生に贈る会の取組が始まります。生徒会のスタートであると共に、来年度の生徒会活動の試金石となる取組です。生徒たちもがんばっていますが、我々職員も感染症対策を怠らず、生徒たちの成長のために、さらに気持ちを引き締めて取り組んでいきたいと思っています。

今年度は、保護者の皆様のご協力により、学校に足を運んでいただく機会を何回か設けることができました。東中は、来年も前に進んでいきます。様々な面をお願いすることもあるかと思いますが、ご理解とご協力をよろしく申し上げます。